火山が生み出す芸術

洞爺湖有珠山フットパスマップを持って出かけよう



K-A火口（有くん）

洞爺湖有珠山フットパスマップは、環境省が整備し2008年6月にオープンした「四十三山（よそみやま）＝明治新山」ルート、2008年7月にオープンした「金比羅山」ルート、その他の見所を地形の凹凸が良く分かる赤色立体地図という特殊な地図を用いて掲載しています。明治、昭和、平成の三世代の噴火口や地溝帯の様子が分かり易く記されています。

マップの作成にあたり岡田弘名誉教授と宇井忠英名誉教授の監修のもと、当研究所寒地水圏研究グループと地域景観ユニットが中心となり、観光に携わる方々や地元関係者の協力を得て、多くの議論を重ね完成の運びとなりました。

今回は、実際にフットパスマップを使って金比羅山ルートを歩いた様子を月報誌面にてご紹介します。

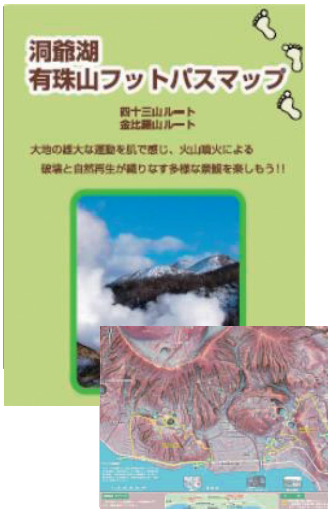
（文責：企画室　岡崎紗也香）







1．桜ヶ丘団地。2000年噴火であふれ出た熱泥流により桜ヶ丘団地の１階部分は埋まり、２階部分に橋が激突した。２．K-B火口（珠ちゃん）今は植物が生い茂る穏やかな景観となっている。３．K-A（有くん）を背に洞爺湖を望む。自然の美しさも、恐ろしさも全てを内包する景色。



監修／岡田　弘、宇井　忠英

編集／(独)土木研究所　寒地土木研究所

発行／(社)北海道観光振興機構

協力／国土交通省北海道開発局、北海道地方環境事務所、林野庁、北海道、洞爺湖町、壮瞥町、株式会社洞爺ガイドセンター、環境防災総合政策研究機構、アジア航測株式会社、株式会社シン技術コンサル

金比羅山ルートは、2000年噴火により形成された火口や断層、災害遺構の様子をたどるルートです。泥流に飲み込まれたアパートや流された橋などの災害遺構は、見る人の心に少なからず噴火の恐ろしさや、大自然の前での人間の無力さを感じさせます。しかし、ルートを進むうちに見えてくる砂防ダムなどの防災施設の様子からは、それでも人々の暮らしを何とか安全に守りたいと願う技術者達の熱意と希望が伝わってきます。

洞爺湖有珠山のフットパスマップに記された道は、自然に親しむ道であると同時に自然の恐ろしさや強大さを教えてくれる道です。水ではなく泥流が流れそのまま凝固した川、火砕流に焼かれ木が半分しか残っていない山、焼けたまま朽ちることもなく立ち続ける木、今は穏やかな姿を見せるかつての火口と、岩盤のような地面を割って芽を出そうとする植物…。

大自然の破壊と再生がそこにはあります。

皆様も是非一度、洞爺湖有珠山フットパスマップを持って現地を歩いてみませんか。

洞爺湖有珠山フットパスマップは（社）北海道観光振興機構のHPにて閲覧することが可能です
http://www.visit-hokkaido.jp/siryo/footpath.html